

が後に追加せられることとなったので、東隊員のみの報告の抄録とすることとした。)

II 南極における傷病

吉 岡 隆*

第1次より第4次にわたる(第2次は越冬不能)越冬中の傷病を主とし、南緯 55 度以南における極地行動中の傷病を従として統計した。

傷病統計の概略は、表 1, 2 に示すとおりである。

3 回にわたる越冬中の傷病は、ほとんどみるべきものはなかった。傷病中の主なるものは、消化器で一般胃腸障害が多くみられたが、いずれもいわゆる食べすぎ、消化不良、神経性のものであった。一般外傷がこれに次いで多かったが、特に極地にみられる特徴はなかった。

Speck finger は、3 回の越冬を通じて隊員のほ

第 1 表 越 冬 中 の 傷 病

| 系統疾患名 | | 期間 | 昭32.1—昭33.1 | 昭34.1—昭35.1 | 昭35.1—昭36.1 | 計 |
|-------|---|-------------------------|---------------------------|-----------------------------|--------------|------------------------|
| | | 越冬隊 | 第 1 次 | 第 3 次 | 第 4 次 | |
| | | 人 員 | 11 | 14 | 15 | |
| | | | | | | |
| 内科的患 | 呼吸器 消化器 運動器 | 0 胃腸炎 消化不良 口イマ | 28 2 | 気管支炎 咽頭炎 3 寒冒 8 | 0 4 | 4 40 2 |
| 外科的疾患 | 一般外傷 虫垂炎 痔疾 カリエス 尿管結石 Speck finger | 挫傷 挫傷 創等 | 7 3 | 28 1 2 | 6 1 1 | 41 1 4 1 2 |
| | 皮膚疾患 | 凍傷 一般皮膚病 | 第一度 第二度 5 3 5 | 第一度 4 寒冷蕁麻疹 9 1 | 第一度~第二度 4 | 21 10 |
| 眼耳鼻患 | 雪盲 結膜炎 | (重症 1) 4 2 | 1 | 1 | 6 2 | |
| 精神神経患 | 頭痛 不眠症 ノイローゼ | 相当多数 1 | 〃 2 | 〃 1~2 | 4~5 | |
| 歯科疾患 | 歯齦炎 むし歯 インレー等 脱落 | 2 11 | 10 4 | 1 | 2 22 4 | |
| その他 | 疲勞 CO ₂ 中毒 宿酔 脚氣・壊血病 | 相当多数 2 | 〃 4 | 〃 | | |
| 計 | | 73 | 71 | 19~20 | | |

* 東京大学木本外科

第2表 南緯 55 度以南における傷病

| 系統 | 疾患名 | 乗組員 隊 | 期間 | | | | 計 |
|----------------|--------------------|----------|---------------------|-----------|--------------|-----------|----------|
| | | | 昭 32.1—2 | 昭 33.1—2 | 昭 34.1—2 | 昭 35.1—2 | |
| | | | 第一次 | 第二次 | 第三次 | 第四次 | |
| | | | 船 77 隊 53 | 船 79 隊 50 | 船 96 隊 34 | 船 94 隊 36 | |
| 内疾 科的患 | 呼 吸 器 | | 寒 冒 21 氣管支炎 3 | 18 | 17 | 26 | 86 |
| | 消 化 器 | | 胃 腸 炎 50 消化不良 | 54 | 結 核 1 137 | 62 | 303 |
| 外疾 科的患 | 一 般 外 傷 疾 痔 | | 挫 傷 創 69 捻 挫 等 2 | 73 | 118 | 101 | 361 2 |
| 皮疾 膚患 | 熱 傷 | | 6 | 5 | 27 | 19 | 57 |
| | 一 般 皮 膚 病 | | 20 | 37 | 56 | 90 | 203 |
| 眼疾 耳 鼻患 | 結 膜 炎 雪 盲 | | 5 | 5 | 6 1 | 6 | 22 1 |
| 精經 神疾 神患 | 不 眠 症 ノ イ ロ ー ゼ | | 47 | 35 | 52 1 | 41 3 | 175 4 |
| 齒疾 科患 | ム シ 歯 | | 10 | 15 | 50 | 70 | 145 |
| そ の 他 | 疲 勞 | | 13 | 7 | 67 | 37 | 124 |
| | 頭 痛 | | 2 | 17 | 16 | 20 | 55 |
| | 宿 醉 | | 2 | 6 | 16 | 20 | 44 |
| | 脚 氣 | | 1 | | 3 | | 4 |
| 計 | | | 251 | 287 | 568 | 495 | |

とんどが素手で「あざらし」を処理したにもかかわらず1例もなかった。ただ創傷は化膿し難く、2次感染は1例もなく治癒した。

凍傷が比較的多くみられたが、第3度は1例もなかった。いずれも屋外において発病した。

雪盲は予期した程多くはなかった。紫外線量は赤道下と同量であった(西堀氏の測定)。

不眠、頭痛、ノイローゼ様症状を訴えるものが相当多数あった。極地の傷病で最も留意すべき点と思われる。

むし歯は比較的多いと思われたが、予期した程ではなかった。第4次は1例のみで、出港前の完全な治療の結果であったと思われる。

その他疲労を訴えるものも相当多かった。

極地行動中の隊及び乗組員における傷病の特徴は、越冬中に比べてそう大差はなかったが、凍傷は1例もなかった。逆に熱傷が比較的多くみられた。

両者を通じて、精神神経疾患のうち、不眠症ノイローゼ様症状が相当多数あったことは、極地に限らず、拘禁性環境に生ずる共通のものと思われる。出港前の精神検査の重要性を感じた。

文 献

- 1) 日本学術会議南極特別委員会医学部門委員会：南極のための医学関係資料，その1～3 (1958. 8. 18)。
- 2) 武藤晃：南極観測第3次越冬隊報告。
- 3) 日本学術会議南極特別委員会：南極観測第4次越冬隊報告，pp. 51～54，pp. 107～111。
- 4) 海上保安庁：第1次～第4次南極地域観測輸送実施経過報告書。第1次 pp. 453～464，第2次 pp. 451～454，第3次 pp. 327～332，第4次 pp. 315～321。